安武敏夫教授の逝去を惜しみて

わが宗教法学会の重鎮であり、貴重なる人格者であられた安武敏夫教授は、さる2002年4月29日に79歳の生涯を閉じられました。そのご逝去は、ひとり当宗教法学会のみならず学界全体にとり限りない愁嘆事であります。

当宗教法学会は、1980年10月に創立され、一昨年20周年の佳節を迎えることができました。思えば発足当時数十人の会員でありましたが、今日では160人を超える学会にまで発展し、毎年春秋に盛大なる研究集会を見るに至りました。この創立から現在の隆盛に至るまでに、故安武教授の尽くされた貢献は計り知れないものがあります。

学会の創立にあたっては、学会の事実上の創立者であり初代理事長を勤められた故谷口知平先生をよく補佐され、準備段階から発足に至るまで、事細かにかつ周到に手を尽くされました。学会創立後は、10年の長きにわたり事務局理事として学会を運営し軌道に乗せ、また事務局が愛知学院に移り若原理事が事務局を担当されるようになってからは、常務理事として理事長の私を支え、学会の重鎮としてご活躍いただいておりました。宗教法の研究等の面においても、各種宗教紛争の解決等を念頭に置きながら、多角的な分野で多くの業績を残され、理論面においても学会をリードされておりました。今日の宗教法学会は安武教授を抜きにして語ることはできません。

このようなご尽力とともに、忘れてならないのは、安武教授の、終始人を分け隔てせぬ円満明朗にして善意溢るる人格であります。宗教法学会の今日あるのも、偏に安武教授のこのような人格に負う処も大であると言えましょう。

当今は偶々日本社会では、首相の靖国神社参拝一事に関しても知らるる如く、宗教法の社会的機能が益々強く問い質されようとしております。このような時世にこそ期待される、穏やかにして深い思慮に充ちておられた人格者、安武敏夫教授のご逝去を、更めて心から哀悼いたします。

2002年８月20日

宗教法学会理事長　小　林　孝　輔